紹介患者様診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 外来診療・検査事前予約 FAX予約

当院では、待ち時間を短く患者様が円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●ご利用につきましては、以下の手続きへのご協力をお願い致します。

①「紹介患者様事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域医療連携室までFAXで送信してください。

↓

②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡致します。

↓

③患者様に以下をお渡しください。

- 予約受付票
- 診療情報提供書（紹介状）
- フィルム等

↓

④ご来院時、患者様には以下をお持ちいただきます。

■先生から受取ったもの
- 予約受付票
- 診療情報提供書（紹介状）
- フィルム等

■別に必要なもの
- 健康保険証
- お薬手帳又はお薬のわかるもの
- 診察券

予約受付先

●京都市立病院地域医療連携室
TEL（075）311-5311㈹（内線2115）
FAX **（075）311-9862（専用）**

●事前予約医療機関専用電話（地域医療連携室直通）
（075）311-6348

事前予約受付時間（日曜・祝日を除く）
平　日/8：30~20：00（木曜日は17：00まで）
土曜日/8：30~12：00
FAXは、24時間お受けしています。

地域医療連携相談業務
平　日/8：30~17：00（月曜日~金曜日）

患者様用 紹介患者様事前予約センター 電話予約

当院では、先生からの紹介状があれば、患者様からのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただくことができます。

※担当医師の指定、検査の予約はできません。

●ご利用につきましては、以下の手続きへのご協力をお願い致します。

①お電話をされる前に、患者様には以下をお手元にご用意いただきます。

- 事前予約申込票（必要事項記入済みのもの）
- 診療情報提供書（紹介状）
- 診察券　※初診でもご予約可能です。

↓

②患者様から『事前予約センター』へお電話いただきます。

専用電話番号 **（075）311-6361**

受付時間/月～金（9：00 ～ 17：00）
※土・日・祝・年末年始（12/29 ～ 1/3）を除く

●ご予約は前日17：00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容
- 患者様のお名前（漢字・ヨミガナ）
- 生年月日・性別
- ご連絡先（電話番号等）
- 紹介元医療機関名・予約診療科

↓

③ご来院時、患者様には以下をお持ちいただきます。

■先生から受け取ったもの
- 事前予約受付票（必要事項記入済みのもの）
- 診療情報提供書（紹介状）
- フィルム等

■別に必要なもの
- 健康保険証
- お薬手帳又はお薬のわかるもの
- 診察券

健康診断や人間ドック、各種検診で「要精密検査」となった場合でも、上記と同様の手続きで事前予約が可能です（初診でも予約可）。ぜひご利用ください。

※ただし、市立病院で人間ドックを受けられた場合は、健診センターでの予約となります。

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、是非ご利用ください。

地方独立行政法人 京都市立病院機構
京都市立病院
地域医療連携室

〒604-8845　京都市中京区壬生東高田町1-2
TEL 075-311-5311（内線2115）　FAX 075-311-9862
事前予約医療機関専用電話（地域医療連携室直通）075-311-6348
http://www.kch-org.jp/

京都市立病院 連携だより

vol.19
平成28年1月

- 新任部長のご紹介
- 「造血細胞移植コーディネーター」について
- 産婦人科の取り組み
- より良い環境での治療を目指して
- 紹介患者様診療･検査事前予約ご利用のご案内

京都市立病院機構理念

京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって
  健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

1　質の高い安全な医療を提供するとともに，地域の医療水準の向上に貢献します。

2　患者の権利と尊厳を尊重し，心のこもった医療を提供します。

3　救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに，
地域住民の健康の維持･増進に貢献します。

4　病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め，健全な病院経営に努めます。

5　職員の育成に努め，職員が自信と誇りを持ち，
全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

新任部長のご紹介

小児科　小児血液部長
（京都府立医科大学　小児科　特任准教授）
石田 宏之

資　格　小児科専門医、小児血液・がん専門医／指導医、血液専門医／指導医、造血細胞移植認定医、インフェクション・コントロール・ドクター

新任のごあいさつ

昨年10月1日に小児科　小児血液部長として着任いたしました石田宏之と申します。私は京都府立医科大学を卒業後、大学院時代は腫瘍免疫の研究をしておりましたが、以後は臨床医として、松下記念病院・京都府立医科大学で白血病・リンパ腫などの悪性疾患、再生不良性貧血・出血性疾患などの良性疾患に加え、先天性免疫不全症などの小児血液疾患をsubspecialtyとして、多くのお子さまと向かい合って参りました。その治療選択肢の一つである同種造血細胞移植は、70例を超える経験がございます。また、松下記念病院では血液疾患に加え、若年性特発性関節炎・SLE・PFAPA症候群などの自己免疫・自己炎症疾患なども多く経験させていただきました。

当科は、以前より血液内科とスムースな連携を取ることにより、赤ちゃんから思春期の一部の方までの血液疾患をお持ちの患者様の診断・治療（免疫療法・化学療法・非血縁者間移植を含めた造血細胞移植）に力を注いで参りました。“思春期の一部の方”とお書きしましたのは、近年、思春期の白血病に対しては小児型治療の優位性が確立しており、小児科で治療されることも多くなってきたためです。新しくなった小児専用の新病棟では、移植室（いわゆる無菌室）や化学療法用個室以外にも多くの個室があり、院内学級・プレールームを備えたより快適な環境で、多職種の皆様方といっしょに、お子さまの治療と勉強・遊びも含めた入院生活が行えるようになりました。小児血液疾患は患者様の数が限られていることに加え、十分な院内環境のもとに様々な職種の皆さんと集学的な治療を行うことが必要な疾患ですので、近年は治療施設が集約化される傾向にあります。京都市およびその近郊の地区についても、京都大学、京都府立医科大学と当科に集約化される傾向にあるようです。これらの疾患に加え、トシリズマブなどの生物学的製剤が必要な若年性特発性関節炎、ステロイド・シクロフォスファミドパルス、ミコフェノール酸モフェチルなどの導入が必要なSLEなどの膠原病に対しても、当科がより貢献できるよう頑張っていく所存です。

良性・悪性血液疾患、自己免疫疾患、遷延性・周期性発熱、関節痛などの自己炎症性疾患が疑われる（もしくはたぶん違うのだろうけれど気になる…といった状態でも構いません）お子さま・思春期の患者様がいらっしゃいましたら、ご紹介いただければ幸いに存じます。至急の受診が必要と判断されましたらその時に、もし急がない場合であれば木曜日午後の血液・膠原病外来のどちらでも構いませんので、よろしくお願いたします。今まで以上に皆様から多くの小児血液疾患・自己免疫性疾患をお任せいただけるように、多数の医師、医療に関る皆さんと協力して総合力を高めていきたいと考えております。

最後になりましたが、今後も皆さまとともに地域医療に貢献できればと考えておりますので、どうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

「造血細胞移植コーディネーター」について

地域医療連携室

近年、移植件数の増加や移植方法の多様化に伴って、手続き業務も複雑化し、これらの業務を多忙な医師や看護師が行うことは難しくなっています。移植医療が円滑に行われるように移植医療関係者や関連機関との調整を行うとともに、レシピエント※、ドナー及びそれぞれの家族の支援、倫理性の担保、リスクマネージメントにも貢献する、医師以外の専門職としてその役割を担うのが、造血細胞移植コーディネーター（Hematopoietic Cell Transplant Coordinator、以下HCTCと記載）です。

コーディネーターの役割

① レシピエント・家族への支援
② ドナー・家族への支援
③ 院内各部門との連携・調整
④ 院外機関との連携・調整
⑤ その他、関連業務（骨髄、臍帯血の搬送･書類作成･データ管理他）

骨髄バンクコーディネーターは骨髄バンクに所属し、骨髄を提供しようとするドナー側に立ち、ドナーが安心して骨髄が提供できるように、医師や採取施設との連絡調整などのサポートを行います。一方でHCTCは、病院等の施設に所属し、移植が適切に実施されるよう、レシピエント、ドナーの双方に関与しながらコーディネートを進めていきます。レシピエント、ドナーの双方に関与するという点がHCTCの大きな特徴であり、骨髄バンクコーディネーターとの最大の相違点であると言われています。

HCTCは、所属する施設に応じて、柔軟かつ臨機応変に対応することが求められ、調整役としての役割が期待されますが、国内における専任のHCTCの数は少なく、地域による格差が大きい等、課題も多い専門職です。当院でも取り組み始めたばかりですが、一日も早く信頼されるコーディネーターとして活動することで、移植医療の効率化、安全や質の向上につなげていきたいと思います。

※レシピエントとは…造血幹細胞の提供を希望する患者や、または造血幹細胞の提供を受ける患者のこと。

産婦人科
の取り組み

地域の中核的産婦人科診療機関を目指して

産婦人科部長
藤原 葉一郎

当科の診療方針

当科では、各種ガイドラインに基づいて、女性の全てのライフステージ、すなわち、胎児期、新生児期、幼児期、思春期、成熟期、更年期、老年期におけるすべての疾患を受け入れ、診療に当たっています。母体搬送を含めた産婦人科救急は24時間受け入れ可能です。

予約いただき外来で診察させていただくのが基本ですが、患者さんの相談等については、直接部長の藤原か、その日の産婦人科当直医にご連絡下さっても結構です。

当科の診療体制

日本産科婦人科学会専門医（6名、内指導医1名）、日本周産期・新生児医学会周産期専門医（3名、内暫定指導医1名）、日本婦人科腫瘍専門医（指導医1名）、日本女性医学学会暫定指導医（1名）、臨床遺伝専門医（1名）、ICDインフェクションコントロールドクター（1名）、日本性感染症学会認定医（1名）、日本医師会認定健康スポーツ医（1名）、日本医師会認定産業医（1名）が、責任を持って診療に当たります。

女性ヘルスケア診療

女性の全てのライフステージにおけるヘルスケアにおいて、それぞれの時期に特有な疾病の検査、診断、治療に当たっています。

●思春期・性成熟期

原発性無月経、続発性無月経や、外陰・腟などの各種生殖管閉鎖症に対する手術（ダビドフなど）、ターナー症候群やアンドロゲン不応症などの染色体異常を伴ったホルモン異常、摂食障害や女性アスリートのヘルスケアや、種々の思春期疾患、性成熟女性におけるホルモン異常や心身症にも対応します。また子宮筋腫や子宮内膜症に対するホルモン療法や、性感染症、PIDも含めた女性性器感染症に対しても、各種抗菌薬の適切な使用に基づいた治療を提供しています。

●更年期・老年期

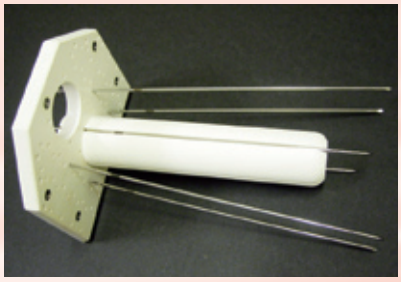
更年期における身体症状や精神症状、骨粗鬆症、心血

管疾患に対するホルモン療法、漢方治療、抗精神薬治療を提供し、また老年期における骨盤臓器脱や下部尿路機能障害などにも対応します。

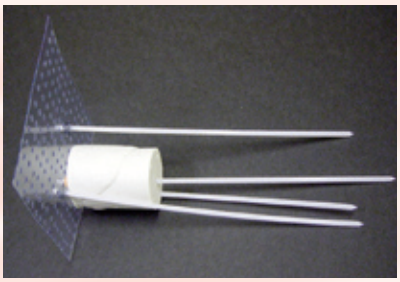
婦人科腫瘍

様々な婦人科良性、悪性腫瘍に対応します。子宮筋腫や卵巣腫瘍に対して侵襲性の少ない鏡視下手術を提供し、悪性疾患に対しては、集学的に化学療法、放射線療法も含めた種々の手術を提供しています。特に経腟的な小線源組織内放射線照射（図1）は、放射線科との協力の基に行っている治療法です。婦人科緊急手術の対応に加えて、性器出血に対するIVRによる動脈塞栓止血法も緊急対応が可能です。また遺伝性婦人科疾患に対しても、きめ細かなカウンセリングを含めた対応を行います。

図1



MUPITアプリケータと▶
金属針



◀ 当院での腟アプリケータとプラスチック針

周産期・母性衛生

社会的なハイリスク例も含めた各種合併症妊娠・分娩・産褥期に医学的な面のみならず、保健指導等の面からも対応します。母体搬送、産褥搬送も、御相談により出来る限り受け入れています。近年増加傾向にある出生前診断についても、当科では超音波断層検査に加えて、母体血清マーカーであるクアトロテストや羊水染色体検査で対応し、施行前後の十分な遺伝カウンセリングも提供しています。生殖・内分泌的異常による不妊症や不育症に対しても出来る限り対応します。また母性衛生についても適切な保健指導も試みています。

当科の診療実績

昨年度（2014年）の外来累計患者数は11,724名で、入院のべ患者数は8,662名でした。手術件数は、帝王切開術を除いて211件で、このうち婦人科悪性腫瘍に対しては93件でした。総分娩数は254例で、帝王切開による分娩が98例、母体搬送は50例でした。

受診、搬送、転院や患者さんの相談については、いつでもご連絡下さい。今後とも、京都市立病院産婦人科を宜しくお願い申し上げます。

より良い環境での治療を目指して

耳鼻咽喉科部長
豊 田 健一郎

当科の診療基本方針

1. 正しい診断と正しい治療を目指して

当科では多岐にわたる耳鼻咽喉科疾患全般にたいして、問診から諸検査結果までを真剣に解釈し、正しい診断を行うこと、知識と技術を磨き、自身以外の意見も取り入れ、最も正しいと考えられる治療を行うことを目標にしています。

2. 患者さんにわかりやすい説明

患者さんにはなるべくわかりやすい言葉での説明を心がけています。手術を受けられる患者さんには、納得し、安心して手術を受けていただけるよう、60種類以上の説明文書を用意し、手術面談前に手術の概要を知っていただくようにしています。

3. 地域医療機関との密接な連携

患者さんをご紹介いただきました先生方には、紹介患者さんのその後につきまして、節目ごとに遅滞なくご報告させていただくよう心を配っております。

当科の特徴

当科の大きな特徴は『連携』です。院内外の様々な方にご協力をいただき、患者さんにより良い環境で治療を受けていただくことを目指しています。

ご紹介元の先生方との紹介状を通した連携から始まり、外来では新しく開設された入院支援センターと連携し、スムースな入院準備を行っております。がんと診断されました患者さんにつきましては、事前にがん看護専門看護師とカンファレンスを行い、外来でのがん告知への同席や、告知後の心理支援を行っています。

入院前、入院中の患者さん全員について、毎週月曜日の夕方に当科医師全てが参加してカンファレンスを行い、病態の把握、治療方針·治療結果の確認など、意思統一を図っています。

入院後は他職種連携耳鼻咽喉科カンファレンスを毎週金

■診療実績

延外来患者数	14,077
新患患者数	1,343

新入院患者数	
24年度	339
25年度	356
26年度	420
平均在院日数	
24年度	13.1
25年度	13.0
26年度	10.9

曜日に開催し、病棟看護師の司会で放射線治療医、がん放射線療法看護認定看護師、がん看護専門看護師、管理栄養士、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーなどが参加し、意見を出し合い、患者さんへのより良いケアや退院へ向けて支援の相談などを行っております。歯科医師、歯科衛生士による口腔ケア、頸部郭清術後の頸部や上肢のリハビリテーションも積極的に行っております。

疾患別特徴

●耳科疾患

正確で安全な手術が行えるよう、国内外の手術研修、側頭骨解剖実習に積極的に参加しています。手術は、最近話題の軟骨を用いた鼓膜再建や、内視鏡を併用した死角の少ない手術から、従来から行われておりますオープン法を用いた中耳真珠腫の徹底的な郭清まで、あらゆる術式に柔軟に対応しています。当科では豊田が治療を担当しています。

めまいに関しましては、最新の眼振計を用いた温度眼振検査などを積極的に行っています。こちらはめまい相談医の井上が主に担当しています。

●鼻科疾患

副鼻腔疾患に対しては積極的に内視鏡手術を行っています。全員が国内の手術研修、解剖実習に参加し、安全に手術を行えるよう配慮しております。

●頭頸部腫瘍

良性から悪性まであらゆる腫瘍に対応しています。当院内分泌内科と連携し、2015年は甲状腺腫瘍手術が40件、副甲状腺手術が10件と、同規模他院と比較して多くの症例の治療を行いました。悪性腫瘍につきましては、積極的に京都府立医科大学頭頸部腫瘍担当と連携し、治療方針の決定を行っております。機能や形態の再建を要する悪性腫瘍手術は、京都府立医科大学形成外科の協力で、当院で施行しております。

●その他

嚥下障害は院内の栄養サポートチームの一員として、嚥下内視鏡を積極的に行っています。また症例により、嚥下造影検査も行っています。主に永尾が担当しています。

誤嚥を繰り返す症例には喉頭摘出を行うことで、合併症のない気道食道分離術を行っております。

最後に

いつも大変お世話になっております。今後とも、地域の患者さんのより良い診療に向けて努力を続けてまいります。これまでと同様に、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。